

教师用书

第二册

日本語 听力

华东师范大学日语系集体编纂

主 编	杜 勤
编写者	王丽薇
(按姓氏 笔划排列)	刘 杰
	李道荣
	杜 勤
	沈丽丽
	陆留弟
	徐敏民

华东师范大学出版社

出版说明

随着我国对外交往的扩大,国内对多种语言交流的需求明显增加,日语在政治、经济、文化等领域中的使用也日益频繁。为适应这种情况,我们规划出版一套《日语听力》教材,并委托华东师范大学外语学院日语学科组编写。本教材被列入国家九五音像制品重点出版规划。

《日语听力》是配合大学日语专业一至三年级精读课本教学所使用的配套听力教材,共分4册。每册又分教师用书、学生用书,每册学生用书配录音磁带。各册设分册主编,主持编纂事宜。接受编写任务的教师们对于本教材的编写,倾注了极大的热情。他们在多年从事日语教学的基础上,参考东京外国语大学等日本高等学府所编写的母语教育读本,翻阅了大量的资料,对本教材的编纂和听力内容的编排提出了不同于现行一般教材编写的全新思路。其特点之一,在于突破了援用现成的日语出版物进行作业的通行编写模式,所用范文多由编写人员根据需要编撰,体现了较高的独创性。特点之二,是教材的听解内容准确地把握了中国学生较难掌握的薄弱环节以及日语特有的语音、语言现象,在设计上注意切合日本实际社会生活场景,语言真实度较高,从而最大限度地实现了教材与日本现实生活的磨合。特点之三,表现为设问方式灵活多变,注重学生综合听能的提高,同时启发学生用日语思考、解答问题,培养学生的日语实际应用能力。这些努力都是力求使本教材更好地体现实用性、准确性和时代性。

本教材的编写得到了日本国际交流基金会日语国际中心的支持和资助,使编写人员能赴日就教材的编写,与日本国内一流语言机构的专家、学者进行切磋,并在他们的帮助下逐字逐句地修改、审定教材内容。可以相信,本教材无论内容还是形式都会达到国内最好水准。在此,我们对全体编写人员,对日本国有关机构、学校和专家,表示深深的

敬意和衷心的感谢!

本教材将于 1999 年底出齐。我们诚挚地希望从事日本语教学和研究的专家、学者以及广大读者对本教材提出宝贵意见,以便我们不断改进,精益求精。

华东师范大学出版社

1998 年 5 月

前 言

继《日本语听力》第一册今年9月出版之后,《日本语听力》第二册在编写组全体同仁的不懈努力下也与读者见面了。教材开发是实现符合时代需求之教学理念的必要程序,同时也是一项筚路蓝缕的工作。本册教材的问世是编写者们长期在日语教学第一线辛勤耕耘、集思广益的结果。

本册教材编写人员(以姓氏笔画为序)及分工情况如下:

王丽薇(第6、18、22、26课);刘杰(第4、7、11、15课);李道荣(第5、10课);杜勤(第1、2、12、14、28课);沈丽丽(第3、13、16、17、29课);陆留弟(第19、20、21、24、30课);徐敏民(第8、9、23、25、27课)。

第二册的编写与第一册同样,有幸得到了日本国际交流基金会“*Japanese—Language Education Fellowship Program*”的大力支持,从而为编写工作提供了有利的条件。有关成员应邀赴日,在日本学习院大学文学部教授、社会言语科学会会长、国语学会代表理事(会长)德川宗贤先生的热情指导下,主编对初稿进行了全面的修改,并征求多方人士的意见直至通过审核定稿。

语言扎根于丰腴的生活沃土之中,富有广泛的文化内涵,同时还生动地传导着时代的信息。本册教材内容上辐射面广,语言文化、传统艺术、宗教思想、教育、礼仪习俗、政治、自然、衣食住行、社会问题均有涉及,较全面地勾勒出日本社会、文化的全貌,从而体现出较强的知识性和趣味性。同时在内容上注重把握时代的脉搏,反映的问题、引用的统计数据切合日本社会的现状,从而体现出较高的时效性。听力训练所用范文由编写人员自行编写而成,突破了依赖现成日语出版物进行编纂的通行模式,从而体现了较强的独创性。

《日本语听力》第二册除了供大专院校日语专业二年级使用外,还适用于广大业余日语爱好者。本册教材共30课,每课由“本文”和“会话”组成,“本文”分“关键词”、“回答问题”、“正误判断”三部分;“会话”分“辨音”、“选择”、“填空”、“熟语·谚语”四部分。

本册教材单词表由华东师范大学出版社日语编辑陈丽菲编写,录音工作由渡边薰子、大西耕司、佐原弥惠担任。本册教材在赴日编写过程中,得到了日本一桥大学社会学部教授三谷孝先生的热情帮助和指导。在筹划和制作过程中还得到了

华东师范大学出版社朱杰人社长、陈朴副社长、陈丽菲女士、赵金土先生的鼎力支持。

本册教材付梓之际,我们谨向所有曾经关心过我们的团体及人士鸣谢致意,同时诚挚地期待着专家们和广大读者提出宝贵的意见,以便我们进一步修订,使本册教材日臻完善。

杜 勤

1998年12月

目 次

第 1 課	相づちと身体言語	1
第 2 課	日本語に見る「和」の精神	5
第 3 課	高齢化社会	9
第 4 課	女性の社会進出	13
第 5 課	暮らし方の意識変化	17
第 6 課	贈答	21
第 7 課	学歴社会	25
第 8 課	家庭生活	29
第 9 課	いじめ問題	33
第 10 課	環境と健康	37
第 11 課	ビジネスマナー	41
第 12 課	日本人の名前と人称代名詞	45
第 13 課	「恥の文化」	49
第 14 課	稲作文化	53
第 15 課	宇宙探険	57
第 16 課	放送大学	61

第 17 課	日本人とマンガ	65
第 18 課	日本人と温泉	69
第 19 課	漢字と日本語	73
第 20 課	茶道	77
第 21 課	華道	81
第 22 課	島国・山国	85
第 23 課	非行問題	89
第 24 課	和魂漢才	93
第 25 課	住宅事情	97
第 26 課	食生活	101
第 27 課	結婚式	105
第 28 課	好きな数字と嫌いな数字	109
第 29 課	阪神・淡路大震災	113
第 30 課	政治の仕組み	116

付録

熟語・諺リスト	123
単語索引	128

第1課 相づちと身体言語



問題 I. テープを聞いて、後の問いに答えなさい。

キーワード

頷く 円滑 タイミング 間隔 いたわり 心遣い 根ざす

相づちとは、人の話に調子を合わせて、言葉を添えたり、頷いたりすることです。円滑な会話には話し手の話だけではなく、聞き手の相づちが必要です。相づちは日本人独特のものではありませんが、外国人よりずっと頻繁に使われているようです。言葉で言うと、「はあ」、「はい」、「ええ」、「なるほど」、「うん」、「そうですね」……、動作では、首を縦に振るといったものがそれです。聞き手は「お話は、聞いていますよ。どうぞ、続けてください」というサインを相づちによって送っているわけです。つまり、相づちは話し手に話を続けやすくさせる働きを持っています。そのために、相づちがないままでは、日本人は非常に不安になり、話し続ける自信を失う恐れがあります。なお、相づちはたいてい話が終わった時にタイミングよく打ちます。間隔が空きすぎると、話し手はまた「ちゃんと聞いてくれているのかな……」と不安に陥ります。話し手が終助詞「ね」などを使って聞き手の同意を求めている時や、聞き手の反応を確かめようとしている時にも相づちを打つ必要があります。電話では相手の顔が見えないだけに、特に相手に絶えずなにか応答をしてもらいたいものです。したがって、電話に出ると、まず「山本ですが……」と自ら名乗ったり、また電話に向かって、頷いたり、御辞儀しながら話している人の姿をよく見掛けますが、これは見えない相手に相づちを打っているのです。相づちは相手が会話を円滑に続けられるように、といういたわりの心遣いに根ざしたものと言えましょう。

1. 質問に対する答えを参照してください。

(1) 相づちとは人の話に調子を合わせて、言葉を添えたり、頷いたりするこ

とです。

- (2) 言葉で言うと、「はい」、「ええ」、「なるほど」、「うん」、「そうですか」……動作では、首を縦に振るといったものがあります。
- (3) 相づちを打つことによって、「お話は、聞いていますよ。どうぞ、続けてください」というサインを送ります。
- (4) 相づちはたいてい話が終わった時や話し手が聞き手の同意を求めている時や聞き手の反応を確かめようとしている時に相づちを打ちます。
- (5) 相づちは話し手に話を続けやすくさせる働きを持っています。それがないと、相手が聞いているかどうか分からないので、話し続ける自信を失う恐れがあります。

2. 「いたわり」的な言語行動は必ずしもプラス効果をもたらしません。プラス効果をもたらすと思うものに○、マイナス効果をもたらすと思うものに×をつけなさい。

- (1) 留学生の話す日本語が所々おかしいので、その場で直してあげるべきでしたが、恥を搔かせると悪いと思って、遠慮しました。 (×)
- (2) (立食パーティーでボーイに料理を勧められて)ありがとうございます。いまのところ結構ですから。また食べたいときにはお願いします。 (○)
- (3) 抗議したかったんですが、お子さんはうちの子と同じ学校だし、どうもねえ。 (×)
- (4) a. すみません、あの……、傘が……。
b. あら、お洋服を濡らしちゃって、ごめんなさい。気が付かなくて。
c. いいえ、混んでいますから。 (○)



問題 II. テープを聞いて、後の問いに答えなさい。

はじめに

次の言葉はこれから聞く会話の中に出てきます。その正しい読み方はどれでしょうか。a、b、cの中から選んでください。

- (1) 身振り (感情や意志を相手に伝えるために体を動かすこと)
- (2) 見極める (物事の真偽を確かめること)
- (3) 親父 (親方)

(答えは(1)はb、(2)はa、(3)はbです。では、どうぞ。)

1. 質問を聞いて、会話の内容と合っているものを、a b cの中から選んで下さい。

(1) 日本人が握りこぶしに小指を立てるしぐさは、(a. 女 b. けち c. 簡単)という意味を表します。

(2) 日本人が握りこぶしに親指を立てるしぐさは(a. 立派 b. 元気 c. 親父)という意味を表します。

(3) 日本人が親指と人差し指で輪を作ると、これは(a. 円満 b. お金 c. 好き)という意味を表します。

(4) 中国人でも、日本人でも小指同士を絡ませるのは(a. 絶交 b. 嫌い c. 約束する)の意です。

(答えは(1)はa、(2)はc、(3)はb、(4)はcです。)

2. もう一度会話を聞いて、全文を完成しなさい。

a. 人間は時々、言葉の代わりに身体の各部分を使って、自分の意思や、感情を伝えることがありますね。

b. これは身振り言語といって、コミュニケーションにおいて見逃せない役割を果たしていますね。それに、各民族の何気ない身振りや、動作は無意識のうちに、言葉には表せない本音を示していることがありますから、それを見極めなくちゃ……。

a. その反対に、自分の何気ない身振りや、動作が誤解され、相手を傷つけたり、怒らせたりすることがありますね。

b. ですから、異なった文化にある人たちの身振りや、動作についての知識を持ち、偏見や誤解のないように気をつけないといけませんね。

a. ところで、日本人のジェスチャーに、我々中国人が誤解しそうなものがありますね。

b. なるほど。

a. 例えば、握りこぶしに小指を立てるというしぐさですが、これは「女」、「愛人」という意味を表します。

b. 中国人はそれを「見劣りがする」、「最低」などに理解しますね。

a. 親指を立てるのは「ボス」、「親父」を表すんですね。

- b. 中国人はそれを「素晴らしい」、「最高」など、絶賛のサインですね。
- a. また、親指と人差し指で輪を作り、お金のことを表しますけど。
- b. これも中国では通用しませんね。中国人は親指と人差し指とを擦ることによって表しますから。
- a. ところが、双方が小指同士を絡ませるのは中日両国では共に約束する意を表しますね。



日本人には他人とは一切関らないという暗黙のルールとして「^{さんざる}三猿」がありますが、その内容を示してください。

- (1) 見ざる
- (2) 聞かざる
- (3) 言わざる



第2課 日本語に見る「和」の精神



問題1. テープを聞いて、後の問いに答えなさい。

キーワード

聖徳太子 言い切らない 婉曲 曖昧 察する 真意 推測

聖徳太子十七条憲法の第一条には「和」の大切さが強調され、「和」の理念は日本人の生活の原則となっています。日本人は会話をしながら、お互いに気持ちが一致していることを喜びます。そのために、日本人は「私」をはっきりさせて、相手と向かい合って親しく話し合っている最中に「いや、そうではありません」とか、「いや、おっしゃった意見に反対です」とか、「いいえ、それは違います、わたしはこう聞いています」というように、はっきりと「No」という「反対」の意思表示をすることはあまりありません。日本人同士の会話では、最後まで言い切らない婉曲な表現が多く用いられます。例えば、「あのう、ここは禁煙なんですけど……」というふうに、自分の意見や、感想などをはっきり示さず、それを相手に察してもらおうと、途中で口を閉ざしてしまいます。また日本社会では、直接的な対立をできるだけ避けようということから、はっきりと断らない傾向があります。その際によく使われる「結構です」という言葉は、もともと十分で、満足であるという意味です。一方、「もう結構です」というと、相手から十分なもてなしを受けて、「これ以上は不必要です」の意味になります。このように、「和」を求める意識が習慣として定着しているために、日本人の言葉は曖昧なものになりがちで、「…じゃないんでしょうか」、「…と言えなくもないが…」、「ご意見はごもっともですが…」などの表現がよく使われます。時には日本人同士でも判断に苦しむこともあります。その場合には話し手の表情を見たり、話の全体的な流れから真意を推測するしかありません。

1. 質問に対する答えを参照してください。

- (1) お互いに気持ちが一致していることに気を配りながら、会話を交わしています。
- (2) 自分の意見や、感想などをはっきり示さず、それを相手に察してもらおうとすることです。
- (3) 相手から十分なもてなしを受けて、「これ以上は不必要です」の意味です。
- (4) 「…じゃないんでしょうか」、「…と言えなくもない」、「ご意見はごもっともですが……」。
- (5) 話し手の表情を見たり、話の全体的な流れからその真意を推測します。

2. 次の文がテープの内容と合っていれば○、違っていれば×をつけなさい。

- (1) 日本人は相手の気持ちを察しながら、意見の相違をできるだけ避け、対話を成立させていきます。 (○)
- (2) 日本語では英語の「No」と同じ意味で「いいえ」を使うと、人間関係の「和」が壊れる恐れがあります。 (○)
- (3) 「もう結構です」というのは、「もう十分いただきました」と感謝の意を込めて断る言い方です。 (○)
- (4) 日本人がものをはっきり言わないのは自分の意見、主張をごまかしたいからです。 (×)
- (5) 日常会話ができ、辞書を使えば新聞の記事が読める人は日本に行けば、すぐ日本の社会に溶け込めます。 (×)



問題 II. テープを聞いて、後の問いに答えなさい。

はじめに

次の言葉はこれから聞く会話の中に出てきます。その正しい読み方はどれでしょうか。a、b、cの中から選んでください。

- (1) 間接 (間に何か仲立ちがあり、それを通して行われること)
- (2) 押し付けがましい (相手の気持ちに構わず、自分の意志を無理に押し付ける様子だ)

(3) 単純明快(構造・働き等がこみいっておらず、はっきり筋道が通っている様子だ)

(答えは(1)はb、(2)はa、(3)はcです。では、どうぞ。)

1. 質問を聞いて、会話の内容と合っているものを、a b cの中から選んで下さい。

(1) 日本語は(a. 曖昧 b. 明快 c. 論理的)な表現が多いのです。

(2) 「…なさい」、「…て下さい」は(a. いい加減な b. 婉曲な c. 押し付けがましい)言い方です。

(3) 日本語では、ストレートで露骨な表現は(a. 責任を負いたくない b. 人間関係の和を乱しかねない c. 個性がある)と思われまます。

(4) 「ちょっと教えてほしいんですけど」の「けど」は(a. 省略現象 b. 丁寧な言い方 c. まじめな言い方)です。

(答えは(1)はa、(2)はc、(3)はb、(4)aはです。)

2. もう一度会話を聞いて、全文を完成しなさい。

a. 日本人は、ストレートで、単純明快な言葉には抵抗があるようです。例えば、子供が母親に「掃除しなさい」とか、「電話を取りなさい」という言葉は使いませんし、生徒が先生に「このことを教えなさい」とか、「私を教えてください」とは言いませんね。

b. この場合は、日本人は普通どういうんですか。

a. そうですね。「掃除して、」とか、「電話を聞いて」というように、すこし間接的に婉曲に表現したり、省略表現を使って「教えてほしいんですけど……」というふうに、あくまで自分の希望を表明する形を取ったり、「ちょっと教えて頂けないんでしょうか」というふうに、授受動詞を使うのが普通ですね。

b. でも、「……なさい」とか、「……てください」は中国語の「請……」に相当する言葉でしょ? どうってことはないように聞こえますが、日本語では一体どういうニュアンスがありますか。

a. これは一種の命令形ですから、押し付けがましいニュアンスがあって、言われた人はあまり良い感じがしませんね。

b. あ、そうですか。ところで、その「……ですけど」の「けど」の意味ですが、

ちょっとピンと来ませんね。

- a. それはですね。実はそのあとに「ご都合はいかがでしょう」というような言葉が省略されているのです。そのために、「教えてほしいんです」と切るよりそのほうが丁寧に聞こえます。



「和」の精神を特徴づける言葉をもう三つ勉強しましょう。

(1) 思いやり

(2) 遠慮

(3) いたわり



第3課 高齢化社会



問題 1. テープを聞いて、後の問いに答えなさい。

キーワード

「寝たきり」老人 痴呆性老人 生涯学習 ボランティア 介護

日本人が長生きだということはよく知られています。厚生省の調べによると、1996年日本人の平均寿命は男性が77.01歳、女性が83.59歳と、世界一の長寿国となっています。さらに、2020年になると、65歳以上の高齢者が日本の総人口の25%を占めると予測され、まさに「超高齢化社会」を迎えようとしています。高齢化が進むと、高齢者が一人で暮らす単独世帯、高齢者夫婦だけの世帯が急増し、2000年にはこれらの世帯数は約半分にまで上ると予想されます。それと同時に「寝たきり」老人や痴呆性老人など、いろいろな障害を持ち、特に介護を必要とする老人が今後急増していくと考えられます。老年人口が増えると、老人たちにかかる費用も増えることとなります。その反面、出生率が伸びずに生産年齢人口と呼ばれる若い人たちがそれほど増えないとすると、若い世代が高齢者を支える負担がますます重くなり、これが高齢化社会が抱える最大の悩みとなるでしょう。

本格的な高齢化社会の到来に対応するために、日本では年金制度、医療保障のいっそうの改善や社会福祉サービスのいっそうの充実などが求められています。また、21世紀に向けて、明るい高齢化社会を築くために、高齢者向けの特別講座や老人大学の開設などを通して、高齢者は生涯学習の機会を与えられています。高齢者自身も趣味、娯楽、スポーツから、ボランティア活動などの社会奉仕まで、積極的に参加することで、いわゆる第二の人生を楽しみたいものです。

1. 質問に対する答えを参照してください。

(1) 男性は77.01歳で、女性は83.59歳でした。